



日刊... 昭和二十一年十二月六日

防空演習成績に 青沼團長の講評

明日第一小學校講堂で

過ぐる防空演習時に於ける平
防演習に對しての同團長青沼
市長の講評は明二十六日午後
一時から第一小學校講堂に團
員一千七百餘名を招集し縣及
び内務大臣の講評報告に併せ
て爲される筈であるが右につ
いて青沼團長は左記の如
く語つた

平市は縣下に於ては福島市
と共に甲の上の成績を費め
られただけに全縣から見
成續良好であつた、殊に海
軍飛行機飛來の當夜市街を
発見するに苦しんだ程であ
ると云はれる當市は縣下一
の激賞を受けてゐる、空襲
に對する深い認識の全市民
の一致協力が此の良成績を
擧げ得たもので細部に亘つ
て云ふならば多少の遺憾は
あつても全般的には優良で
あつた、この成績に惜しい
事と思はれたものは愈々解
除の報である二十三日の未
明に氣が緩んだ爲か未だ警
制下に於て光をもらしたも
のがあることだ其れから團
員に固く注意した言葉の使
ひ方も一同がよく守られて
一般から好感をもたれたこ
とも實してよいと思ふ

皇軍慰問獻金

石城郡野崎村の第二警備隊長
坑の建築従業員一同は皇軍慰

向は映畫會を催して事變ニ
一ス數巻及び余興には赤垣源
藏の忠節美談その他數巻を觀
覽に供する由で東京鐵道局か
ら局長代理として工作部長向
釜金吾氏臨席すると

木工家具工業 組合の總會

平市同業州餘名
木工家具工業組合では
今二十六日午後一時から市内
マルトモホールに總會を開き
同業三十餘名を會して組合創
立に關し定款設定並びに役員
の選舉をなした

豊間築港の運動に 氣遣はれた四倉港

全町民が飛び立つ歡び

石城郡四倉港の第二期工事施
行運動と同郡豊間村の漁港繼
續工事施行の陳情は先年來互
に其の實現を競つてゐたが縣
に於ても一方に二個の工事
を同時に施行することの困難
を見て争ふことの非を論じ四
倉漁港の第二期工事を先にす
る代償として豊間漁港を縣支
辨に編入を決し右を明年度豫
算に計上する方針でゐたが去
る十八日郡選出の野崎議員及
び進沼議員の兩氏は豊間村の
代表者數名と共に上京し主務
省に出頭同村の志望達成の爲
め熱心なる運動をなすところ
あつたので縣會招集に近い此
の運動が或は四倉港の第二期

ボーターは履台車の給
仕、運搬人、番人、驛
の赤頭及びホテルまた
はパー或はカフェエとな
どの掃除人寮小使のこ
とを呼ぶものでこれに
女子が當つてゐるもの
をボーターガールと云
びに呼ぶのである

鐵道防火組の 豫行演習

明日品川白跡で

平鐵道管内各機關聯合防火組
合では明二十六日午前十時か
ら東鐵工務部からの狀況視察
を迎へて構内隣接の品川白跡
瓦工場跡に於て組長日野保
線區長指揮の下に防火豫行演
習を施行し鐵道消防隊ガソリ
ンポンプの放水試験並びに非
常撤出の訓練をなす筈だが出
動者は百五十名であると

非常時下の緊張 防火デー

標語ビラ三萬枚

全國一斉で行はれる来る十二
月一日に於ける平署の防火デ
ーは非常時下の緊張を以て一
層徹底的に施行の筈であるが
向は左記標語を印刷しした宣傳
ビラ三萬枚を管下に撒布し一
出する火事への注意を促める
と
出る時寝るとき火の用心、
宵の不仕末は火の用心、
一人の不仕末は万人の不幸、
子供の火遊びは火事の元、
何氣なく乗る吹送火事の元

軍用候補馬の 鍛練團體を獎勵

昨日石城に此指導説明

縣では軍用候補馬の資質向上
の爲め鍛練會または乘馬團體
の結成を奨めることとなり昨
二十四日江口技師を石城郡に
派し平市團休事務所に於て午
前十時から從來慣行あるもの
と異なる町村の關係者を招集し
獎勵金の交付等について指導
説明をなした石城郡には少
うとする方針の由である

架橋人夫頭 重傷死亡

六十枚の工事で

石城郡草野村と夏井村の境に
架かる六十枚橋の架設工事に
従事してゐる人夫頭架設郡木
戸村生武藤市男君は去る
二十三日午後二時脚橋脚架設
の捲揚機下に作業を監督中捲
揚機のワイヤロープが脱れて
支柱が倒れた剎那背後から頸
部を強打し應急手当を加へた
が間もなく絶命した

賭博團檢挙

數十名の

小名濱町は目下近年にない銅
の豊漁で活氣を呈してゐるが
其の爲め強夫の横暴が温かい
ので動もすれば慰安を賭博に
傾け現金賭けの花合戦が盛ん
に行はれてゐる模様を以て平
署では數日來刑半總出を以て
これが檢挙に當り今二十五日
未明開帳の現場に踏み込み同
所の一團を取押へた結果芋蔓
的に當署者を發覺し同町字古
湊漁夫野崎忠治(三)外二十餘
名をトラックで本署に運び取
調べに大忙を見てゐるが尙
ほ多數の檢舉に及ぶものと見
られてゐる

金は不用 戦する身に

俸給を國防獻金

石城郡鹿島村の下矢田字中屋
歌出身〇〇兵江尻太氏は應召
征途の途上である〇〇地から
俸給を割いて金一圓五十錢の
爲替に左記の手紙を添えて國
防費に獻金した
秋冷の候皆々御元氣のこと
と思ひます、小兵も御陰
に可く軍務に精勵仕居り候間
他事乍ら御放念下され度候
先は亂筆にて延引ながら御
禮申上度如斯御座候、
尙ほ末筆にて失禮ながら皆
々様の御健勝を異國の空上
り御祈り申上候、敬具
平市出身 森田要之助
到着、十一月四日より現在
〇〇に於て粉骨碎身の決意
を以て皆様の御期待に副ふ
り御祈り申上候、敬具
平市出身 片島 好
拜啓、小生應召出發の折は
種々御厚情を賜り厚く御禮
申上ます、
〇〇日再び滿州に参り奉天
新京、を経て〇〇日ハルビ

古梅園の羅 魁文堂

電話313番

一口價格五十圓の衣類數點を
窃取逃走した賊がゐるので所
轄平署が犯人捜索中であるが
二十三日平市新川町刀剣前
方八右軍刀を賣り來た男が
あるので取押へると同人は茨
城縣久慈郡永瀬村生れ當時住
所不定前科一犯、代及三三三
取調への結果、茨城、山形方面
に於て貴金屬類その他十數點
價三百圓餘の盜み働いたこと
と自白した

盗んだ物の 賣却で逮捕

茨城生れの科科者

今晩も明日も北風の風、晴
(時雨模様)
(小名濱町測所)
ンに到着、御承知の松花江
を船により下ること、晝夜
先は亂筆にて延引ながら御
禮申上度如斯御座候、
尙ほ末筆にて失禮ながら皆
々様の御健勝を異國の空上
り御祈り申上候、敬具
平市出身 森田要之助
到着、十一月四日より現在
〇〇に於て粉骨碎身の決意
を以て皆様の御期待に副ふ
り御祈り申上候、敬具
平市出身 片島 好
拜啓、小生應召出發の折は
種々御厚情を賜り厚く御禮
申上ます、
〇〇日再び滿州に参り奉天
新京、を経て〇〇日ハルビ

産業方面

支那事變

（上） 三陸鮪何所へ行く
内地需要に大苦心
三陸から出る鮪は相当巨額によるもので支那を唯一の顧客としてゐたが今次の支那事變の影響で此の重要水産物である干鮪は何所へ行くのか一寸迷はねばならぬ状態に陥んでゐる、同地方からの干鮪は日本水産會社と岩手縣の漁業組合聯合會の提携によつて同縣漁業聯合會が一手に買上げること決定したので沿岸の漁民達もホットと息づいたのだつたが日本水産會社では買つては見たるものゝ支那事變が長期にわたつたときのことを豫想されるので若しそうなたつ場合はこれを内地の需要に仕向けやう方針から種々と研究の結果、先づ東京市場に三陸鮪を生のみで出荷して見たところ生のまゝでも着くことはつくのであるが成績が餘り香ばしくないのでなく輸送の費用が高はつて採算がたない爲め目下は貝付のまゝ煮たものや貝を除去してむき身を煮干しにしてこれを試験輸送してゐる、然しこれも果してお江戸の口に向くかどうか結果を注目されて居り若しこれも餘り歓迎されないとなつたとき何所へ向けたいか此處に三陸鮪が何處へ行くであらうかの歎を發せられることになつてゐる、右については各市場でも處置方に考へを練られてゐるものゝ如くであつて東京市中央市場會社の特殊物産賣場主任の語るところを次に述べる、

牛も豚も優良品の自慢
肉の御 三三三屋 平市 田町
用命は

デーリーサービス

月	日	肉	魚	卵	牛乳	パン	菓子	調味料	その他
品目	品目	品目	品目	品目	品目	品目	品目	品目	品目
カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ	カツレツ
...

特にマルトモのランチは...
材料のみまかせを願つて用ゐる爲め其の節々のおいしい新鮮な物を御進め出来まますので御華客様からいつも御好評を戴いて居ります。

RESTAURANT MARUTOMO
堂食モトルマ

本年流行

ベルベット地
婦人シヨール
三ハ〇より一三〇〇まで
豊富陳列

ツルヤ
平四。電一四〇

江尻伊三郎 院醫

専門 皮膚科 泌尿器科 性病科
診療時間 午前八時より午後九時まで
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九一

和洋銅鐵、金物問屋
店商屋釜
九九・九電

表代城磐 酒銘
美味經濟 醬油
山崎合名會社
電話十番

中野齒科醫院

院長 中野 誠
日本齒科 醫學士 西川 誠
日本齒科 醫學士 中野 次
（松月堂向ひ）
平市田町 電話五〇九

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
平市新川町 電話二六九番一

次 店商山横

債券部
町問仲市平
〇一六〇九京東管振
番一七二話電

サロシ

食 事
喫 茶
酒場を兼ねた。
町田平 二五三電

北川外科

外科一般 内臓外科
泌尿器科
診療 晝夜
平市新川町二七（電話四六四）
醫學博士 北川 芳夫
入院デキマス 技師 三浦 常保